

令和6年度鹿児島市小中連携研修会 報告  
【黒神小学校・黒神中学校】

## 1 研究主題

極小規模校における効果的な小中連携  
～ 小中全職員で育てる黒神の子 ～

## 2 主題設定の理由

黒神小学校，黒神中学校は両校とも極小規模校で児童生徒数は少ないが，児童生徒は，明るくのびのびと学校生活を送ることができている。両校はこれまで極小規模校の特性を生かしながら，児童生徒一人一人に多くかかわり，各種行事の共同実施等を行ってきた。児童生徒数は今後も少ない状況が継続すると考えられることから，各種教育活動を効果的に進めるためには，小中学校間の連携は，非常に有効であり，不可欠であると考えられる。子どもの発達段階を考慮し，小中学校を通して成長を見守り「黒神の子」を育てるために上記主題を設定した。

## 3 研究の実際

## (1) 第1回小中連携研修会（令和6年6月3日）

## ① 日程及び内容

13:45    13:50    13:55    14:45    15:00    15:30    16:00    16:30

|           |             |              |               |             |             |             |             |
|-----------|-------------|--------------|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 受付<br>(5) | 開会行事<br>(5) | 授業参観<br>(50) | 準備・移動<br>(15) | 協議Ⅰ<br>(30) | 整備室<br>(30) | 協議Ⅱ<br>(30) | 閉会行事<br>(5) |
|-----------|-------------|--------------|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|

## ② 授業参観

| 学年 | 教科 | 単元（教材名）               | 場所   | 指導者   |
|----|----|-----------------------|------|-------|
| 2年 | 国語 | 文法への扉1<br>「単語をどう分ける？」 | 2年教室 | 田中 瑞穂 |



③ 全体会

| 全体会名 | 進行           | 司会           | 記録           | 指導助言         |
|------|--------------|--------------|--------------|--------------|
|      | 氏名・所属        | 氏名・所属        | 氏名・所属        | 氏名・所属        |
| 協議Ⅰ  | 上戸 洋平<br>黒神中 | 上戸 洋平<br>黒神中 | 稲留 賢司<br>黒神中 | 富永 章文<br>黒神小 |
| 協議Ⅱ  | 上戸 洋平<br>黒神中 | 上戸 洋平<br>黒神中 | 田中 瑞穂<br>黒神中 | 野村 浩二<br>黒神中 |

ア 協議Ⅰ【授業研究】

I C T機器の活用が、「生徒の主体的な学習への取組に生かされ、学習内容を理解する手助けになっているか。」という視点をもとに授業研究を行った。

効果的なI C T活用法として、生徒がロイロノートで語句の分類を行ったり、振り返りを確認したりする活動を行った。その際、分類したものをどのように共有する工夫ができたか提案があり、さらなるI C T機器の活用について質疑応答を行った。

イ 協議Ⅱ【生徒指導に係る小中連携の在り方, 令和6年度活動計画】

<生徒指導に係る小中連携の在り方>

生徒指導上の課題等について協議を行った。小中学校とも教室や学校で友だちと触れ合える場面が少ないため、集団生活における社会性を育むために、他校との交流の機会について意見交換を行った。

<令和6年度活動計画>

プール清掃, リサイクル活動, 運動会, 椿油製造・販売や地域清掃活動について説明等を行った。運動会については、前年度の反省をもとに対策などの協議を行った。

(2) 第2回小中連携研修会（令和6年8月21日）

ア 運動会について

運動会の実施計画や合同練習, 合同作業や予行練習について協議を行った。児童生徒の係分担, 競技内容等の見直しについて協議を行った。

イ 椿油製造・販売について

昨年度の反省をもとに、椿の実拾い活動や各種準備, 販売の実施方法について協議を行った。椿の実拾い活動は、昨年と同様に桜峰小学校も加わった3校合同での作業とすることを確認した。

(3) 第2回小中連携研修会（令和6年9月18日）

椿の実拾いや山形屋での椿油販売当日の役割分担や日程について協議を行った。

(4) 小中行事等調整会（令和7年2月17日）

令和7年度の行事等の実施予定日について、2月17日（月）に中学校で調整会を行った。

5 成果と課題

(1) 成果

- ・ 行事を合同で行うことで、児童生徒と職員間や児童生徒間, 職員間で親交を深め、各種教育活動を効果的に進めることができた。
- ・ 職員間で連携を取り合うことで、児童生徒や保護者, 地域の方の情報を共有することができ、学校運営や子どもの成長に役立てることができた。

(2) 課題

- ・ 児童生徒の在籍数が各学年1人または2人のため、話し合い学習や集団行動の場の設定が難しい。小小交流や中中交流など、他校との交流学習の機会を増やしていく必要がある。
- ・ 少ない人数で運動会等の行事を実施するため、人数や児童生徒の発達段階に合わせた行事内容の改善を行っていく必要がある。